

とちぎ夢大地応援団カレッジ活動報告(令和2年9月12日(土)実施)

茂木町深沢地区美土里農園「いちご定植作業」

若者に農業や農村の役割を理解してもらう「とちぎ夢大地応援団カレッジ活動」が12日、観光いちご園を運営する茂木町深沢の「美土里農園」で開催されました。本年のカレッジ活動は5回実施する予定で、今回はその1回目で文星芸術大学生が参加しました。

カレッジ活動は次世代を担う若い世代に、農作業や農村資源の保全活動を体験してもらい、農業・農村の果たす役割の理解促進を図る事などが目的です。参加した留学生の5人は、農園スタッフらの指導を受け、栃木県開発のいちごの新品種「とちあいか」の苗をビニールハウスの中の畝に、一つ一つ丁寧に植えました。また、害虫を防ぐための準備も手伝いました。

午後からは、地元産食材が満載のお弁当を挟み、定植前の苗から不要な葉を取り除く「葉かき」にも挑戦。苗の状態を見極めながら、はさみを使って古い葉を落としました。



▲雨交じりの天候でしたが、連日の猛暑は一休み。作業しやすい1日となりました。



はじめに、(株)美土里農園スタッフ；檜山さんより、ご挨拶と施設概要の説明をいただきました。

宇都宮文星芸術大学からは、5名の生徒さんと1名の職員さんが参加しました。



次に、いちごハウスへ移動し、定植作業の説明を、同スタッフ：篠田さんよりいただきました。いちごは繊細なので、丁寧に作業を行ってほしいと要望がありました。



お昼ご飯の様子になります。3密を避けるために、屋外で気持ちよくいただきました。提供された幕の内弁当は地元産食材を使用したものです。中国から来た皆さんも「大変おいしい」ときれいに平らげました。



午後からは、いちごの「葉かき作業」を手伝っていただきました。はさみを使って、余分な葉を刈り取りました。一つのコンテナに60株ずつ詰め込みます。